

4年目を迎えた前女SSH

校長挨拶

校長 金井尚之

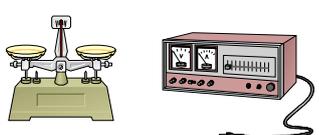
本校は、平成25年度～29年度の5年間、「スーパーサイエンスハイスクール（以下SSH）」として文部科学省から指定を受け、今年度4年目の活動を始めたところです。

本校のSSHの特色は、以下に示す4つのプログラムを柱とする活動をもとに、第一に全生徒が主体的に課題研究に取り組むこと、第二に様々な体験的活動を通していろいろな学問分野への視野を広げること、第三に得られた成果を地域社会から国際社会まで幅広く発信すること、の3つの能力が向上できるような取組を行っていることです。

本校では、指定1年目から一貫してこのような取組を行っており、現在に至るまで、明らかになった課題を1つずつ解決しつつ、取組の内容を深め広げ、充実させてきました。その結果、成果としても徐々に表れてきており、昨年度行われた文部科学省による中間評価でも、これまでの取組や成果について高い評価を受けました。一方、文部科学省が提示するSSHの大きな目標が「教育課程開発」であることから、現在本校で行っているSSHの課外的な活動を、教育課程の中にかに取り込んでいくかが課題であり、次年度に向けて、課題解決のための方策を検討しているところです。

今年度は、これまでの取組をより充実したものとするとともに、進路選択や卒業後の活動にもSSHの経験が良い影響をもたらされるよう、職員一同、努力を重ねていく所存です。

本校のSSHは、次に挙げる**4つの**取り組みを**柱**としていきます。

4つの柱	対象生徒／実施内容
① 科学的探究プログラム	教育課程内に位置づけられた活動
科学的探究Ⅰ	1学年全員 課題研究（1期、2期 テーマ選択制）
科学的探究Ⅱ	2学年全員 課題研究（年間1テーマ 任意設定）
② MJ-Global	教育課程内＋課外的な活動
Graded Reading	1, 2学年全員 英語書物の段階的な速読と多読
マレーシア研修	1, 2学年希望者 マレーシアの高校や大学との交流
③ SS-Lecture	全学年希望者
	<ul style="list-style-type: none"> 講座：活躍している科学者や技術者を招いての講演や演習 研修：さまざまな研究機関等での体験的な活動 
④ MJサイエンス	全学年希望者（MJラボ、地学部、理科部、他有志）
	<ul style="list-style-type: none"> 専門性が高くより深い課題研究 大学や研究機関との連携 科学の甲子園、各国際科学オリンピック等への出場 

==昨年度の3学期から今年度はじめに行われた活動結果をご報告します。==

SS-Lecture 菅平高原実験センター実習

1月15日(金)～17日(日)にかけて、SS-Lectureの研修で、筑波大学菅平高原実験センターでの実習を行いました。



冬の菅平高原では、さまざまな動物の足跡が観察ができるほか、バードウォッチングやニホンリスの生態の観察などが行えます。当日も積雪が少なかったものの、ホンドキツネやノウサギ、テンなどの足跡を確認することができました。また、実験棟では走査型電子顕微鏡の操作も行うことができました。

SSH公開発表会

本校では、SSHの1年間の活動成果を、本校内外に広く公開する公開発表会を開催しています。昨年度は、2月6日(土)に本校を会場として実施いたしました。

今回の発表会では、本県のSSH実施校である桐生高校物理部の招待発表を行いました。またポスター発表では、課題研究の発表に加え、Graded Readingやマレーシア研修の発表も行い、昨年度の1.5倍ほどの63の発表を行いました。

校外からの参加者は、保護者や他校の教員、中学生など、昨年度の84名を大幅に上回る208名の参加がありました。



SSH指定女子高校6校課題研究発表会

3月25日(金)、お茶の水女子大学において、北関東のSSH指定女子高校6校(浦和第一女子、川越女子、熊谷



女子、水戸第二、宇都宮女子、本校)による課題研究発表会が行われました。

本校からは、口頭発表2発表と、それらを含めたポスター発表9発表を行いました。各発表に対して、お茶の水女子大学の先生方などによる評価と審査が行われ、優秀賞3、探究賞1を受賞しました。

科学的探究II活動開始

2学年全員が実施する課題研究活動である、「科学的探究II」がスタートしました。科学的探究IIは、教育課程内に位置付けられており、週に1時間の割合でグループ単位で研究を行います。1学年で行った「科学的探究I」で培った探究プロセスをさらに発展させるとともに、グループごとに身近な自然現象や社会現象から研究テーマを見つけます。この研究

テーマ決めが、これからの研究の成否を左右する重要な活動であるため、現在、ブレインストーミングやKJ法などの手法を用いて、研究テーマを検討しているところです。



アースデイ2016in桐生に参加

4月24日(日)、群馬大学桐生キャンパスで、「アースデイ2016in桐生」に地学部が参加しました。地学部は、「七



タライトダウン」という、七夕の日に照明を消して「天の川」を見よう!という活動を行っており、県内で協力者や協力団体を広く募っています。今回その一環として参加し、たくさんの来場者に、趣旨の説明と協力の依頼を行うことができました。